

「童謡のまち」に文化賞



広野町 県内初の受賞

「童謡のまちづくり」を進める広野町は、日本童謡協会が童謡の普及発展に貢献した個人、団体に贈る今年の童謡文化賞を選ばれた。県内からの受賞は初めて。平成六年から「ひろの童謡（うた）まつり」を開催し、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が発生した二十三年を除き毎年継続してきたことが評価された。関係者は「受賞を機に広野の魅力を全国に発信したい」と喜んでいる。

歌で復興評価

震災に負けず継続

広野町は「今は山中車」、ふたば未来学園今は浜で始まる唱歌「汽車ゆかりの地」といわれ、童謡「とんぼのめがね」は町内で内科医院を開業していた作詞者の故額賀誠志さんが町内上浅見川字第平（ほうきだいら）の情景を描いたとされる。JR広野駅には汽

車、高近くの築地ヶ丘公園には「とんぼのめがね」の歌碑がある。

童謡まつりは町民が合唱グループや童謡歌手が歌声を披露し、全国から公募した詩に曲と始まった。町内外のを付け新たな童謡として

表彰式は三十日午後六時から東京ガーデンパレスで行われる。広野町には表彰状と記念の盾、賞金三十万円が贈られる。

魅力全国に発信

関係者 喜びの声

町の関係者は受賞の喜びに沸いている。

遠藤智町長は「町民一派。来年は童謡誕生百

歳。来年は童謡誕生百歳。来年は童謡誕生百

歳。

コさんは「震災を乗り

童謡まつりを進め、広野の魅力を全国に発信していく」と述べた。広野童謡大使を務める声楽家真理ヨシコさんは「震災を乗り

越え、童謡まつりを続けた町民に敬意を表したい。童謡が町の復興に貢献してきた成果

と祝意を示した。

二十三回目となる今



JR広野駅に設置されている唱歌「汽車」の歌碑。「童謡のまち広野のシンボルとなっている

童謡が生まれ、全国各地で愛唱されています。

十四日に町中央体育館で開催される。童謡まつり実行委員会の谷平克二委員長（六〇）は「受賞を機に内容を充実させ、大勢の町民に参加呼び掛けたい」と意

気込みを語った。童謡「とんぼのめがね」を作曲した故平井康三郎さんの孫で英国ピアニスト平井元喜さん（四四）は「どんな時代や状況でも童謡は日本人の『心のあるさ』だと海外に住んで痛感する。これからも童謡のまちとして勇気と夢を与えてください」と祝福した。

童謡まつりで元気な歌声を響かせた広野小学校の児童と広野中の生徒＝平成28年10月15日